

西光

LIVING A LIFE WITH BUDDHISM

浄土宗西山禅林寺派
雲龍山 西光寺 住職 大塚靈閑

〒671-0101
姫路市大塩町229番地
Tel 079-254-0351
Fax 079-254-4142
Email otsuka@saikouji-himeji.com
HP <https://saikouji-himeji.com/>



HP



LINE



Instagram

ぶっきょうのはなし
「お骨、法事・・・」

日常に溶け込む仏教語
「中道」

門前掲示板 一言法話

花には散ったあとの悲しみはない
花咲き 花散る ただそれだけ
正論がいつも正しいとは限らない
変わる者 有ること無し

8月のお盆行事のご案内 棚経・施餓鬼会

ぶつきょうのはなし

お骨、法事・・・



インドでは遺骨に意味はない！？

散骨というと新しい葬法かと思いきや、仏教が生まれたインドは古来より散骨の国です。インドでは亡くなると火葬し、お骨は川に流してしまいます。今でいうところの散骨です。埋葬するお骨がないので、遺骨を納める墓もない、というよりありません。死後魂が何度も生まれ変わり、生死を繰り返す輪廻転生が説かれるインドでは、魂は死者の身体から離れ、他のものに移るため、元の身体(遺骨)は不要なもの、意味のないものとなるからです。ただお釈迦さまの遺骨は仏舎利といわれ、例外的に信仰の対象としてお祀りします。姫路市の名古屋山霊苑の仏舎利塔には、インドのネール首相から贈られた仏舎利が安置されています。

一方中国では・・・

一方、インドから仏教が伝わった中国では、古来より死後の儀式、祭祀を重要なものとして行ってきたため、遺骨を捨ててしまうなどありえません。それどころかそれがないとはじまりません。古代の中国では、故人の依り代として頭蓋骨を祀っていたようです。しかし頭蓋骨は気味が悪いということで、故人に似せたマスクを代わりに祀るようになり、いやそれもなんだか異様だということで、故人の情報が記された神主という木の板に変わっていききました。私たちが現在お祀りしている位牌の原型です。というわけで、現在私たちが行っている葬儀や法事などの仏事や祭祀は中国、儒教の影響が大変色濃く反映されています。

1周忌や3回忌の意味

頭蓋骨を祀るためには、遺体は白骨化させねばなりません。中国北部地域において、野ざらしにされた遺体の白骨化の目安が2年であったようです。頭蓋骨はお堂や壇にお祀りし、残りの骨は埋葬しました。つまりこの死後2年が一つの節目になるわけです。この日をもって死の儀式が終わり、以後は先祖の祭祀という、めでたいものになるために、この日を大祥、すなわち大いにめでたい日としました。そして死後1年の日は、死の儀式が順調に行われているという意味で、小祥、少しめでたい日としました。この大祥、小祥が仏教に取り入れられ、それぞれ3回忌、1周忌となっています。没後1年目以降の亡くなった日を祥月命日といいますが、この祥も大祥、小祥からきています。

なぜ2年目が3回忌？

儒教には、年齢は誕生日の翌日より数え、命日は死亡日の前日より数えるという考え方があります。例えば令和8年6月17日に亡くなった時、仮に命日を前日の6月16日とする。するとその2年後の令和10年6月16日が丸2年目となりますが、本当の命日である6月17日は丸2年が過ぎ3年目に入っています。数え年でいうところの3年目、足掛け3年というわけです。遺骨が完全に白骨化し、埋葬されるこの日を「三年之喪」と称し、この日をもって一連の死の儀式に区切りをつけるのです。ただ凶礼(喪葬)から吉礼(祭祀)に変わるという節目であって、全て終わりというわけではありません。3回忌までには納骨を、と巷でいわれるのは、こういった背景もあるのかもしれない。

(参考文献)『沈黙の宗教—儒教』加地伸行

ちゅうどう

中道

日常に溶け込む仏教語



永観堂禅林寺

ホワイトハラスメントという言葉をご存じでしょうか。ハラスメントとは相手に苦痛や不快感を与える言動をいいますが、ホワイトハラスメントはハラスメントを恐れるがあまり、指導や注意を避けたり、仕事の負荷をかけないよう過度な気遣いや配慮をすることです。パワハラの逆です。これが今後輩や部下が育たないとして問題になっているようです。とはいえ問題の根底には人間関係や信頼関係があるように思えます。同じことを言われても、素直に受け取れることもあれば、「あなたには言われたくない」と心の中でイラっとしてしまうこともあるのではないのでしょうか。なかなかええ塩梅の適切な距離感が難しい世の中です。

お釈迦さまは一国の王子として生まれ、何一つ不自由のない生活を送っていました。そんなある日、城の外に出たお釈迦さまは、老病死に苦しむ人々の様子を目の当たりにしました。このことがきっかけとなり出家をしたお釈迦さまは、今までの生活とは真逆の苦行・難行を何年も続けられました。しかしこれでは悟りは開けないとある時、苦行をやめる決意をします。

この時の悟りが「中道」の教えです。文字通りとると両極端ではない、真ん中の道です。「なるほど、いや、でも真ん中って何?」。中道改革連合という政党ができた時のモヤモヤ感にあんぽいに似ています。ええ塩梅という便利な言葉がありますが、現代的には中道は全体を見たうえで、様々な視点から物事をみて適切な判断をすることといえます。政治家の答弁で「総合的な見地から適切に判断してまいります」というフレーズをよく聞きます。そりゃ不適切には判断しないだろうとツッコミそうになりますが、ある意味この適切に判断するということは間違ってはおりません。

両極端と真ん中の三択ではないのです。こっちだあっちだと一方にとらわれない、執着から離れるしゅうじやくということです。中道は現実を正しく見極めるものの見方です。つまりは悟りに至る正しい実践の道です。この正しく見極めるものの見方を、お釈迦さまは八つ示されました。正しいものの見方、正しいものの考え方、正しいことば、正しい行い、正しい生活、正しい努力、正しい念い、正しい心のおもの統一。八正道はっしょうどうといいますが、これはまた別の機会にしましょう(^_^)



No 仏教, No Life

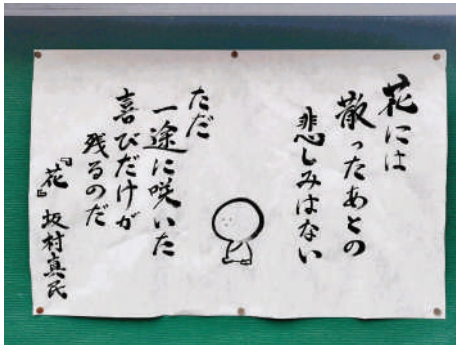
令和8年3月～6月

門前揭示板 一言法話

3月

花には散ったあとの悲しみはない

ただ一途に咲いた喜びだけが残るのだ



時に皆の笑顔があふれる葬儀に出会うことがある。

もちろん遺された者に悲しみや寂しさが無いわけではないだろう。

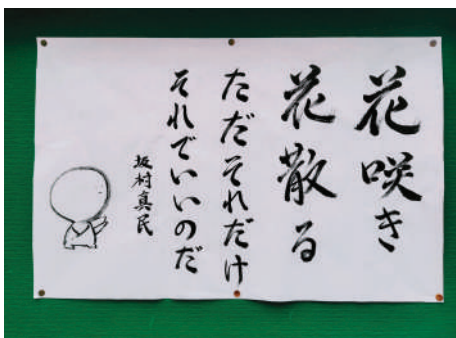
しかしそれ以上に「いい人生やったね」と皆が心から思える生き方を故人がしてきた証なのだと思う。

皆からの祝福を受けてこの世に生まれ、感謝と喜びの笑顔に囲まれこの世を去り行く。

そして死してなお、故人は遺された者の心の中で生き続ける。

4月

花咲き 花散る ただそれだけ それでいいのだ



ドイツの哲学者ニーチェは「自然が美しいのは、自然がこちらに全く無関心だから」といいます。私たちが「やっぱり桜はきれいだな」「あ～桜も終わりだな」と一喜一憂している一方、自然の方はというと、全く私たちに無関心です。人間様に褒めてもらうためにきれいに咲こう、頑張って長いこと咲いていようなどは思わないのです。「ただ咲き、ただ散る」。その利害や評価、計算から解放された「ただそれだけ」の美しさに私たちは魅かれるのかもしれませんが。

ただそれだけ

坂村真民

宗教臭い人間になったら

もうおしまいだ

仏教臭い人間になったら

もうおしまいだ

詩人臭い人間になったら

もうおしまいだ

人を救うんだ

人を助けるんだ

そういうことを

口にする人間になったら

もうおしまいだ

花咲き

花散る

ただそれだけ

それでいいのだ

ただ黙っていても

心が結ばれてゆく

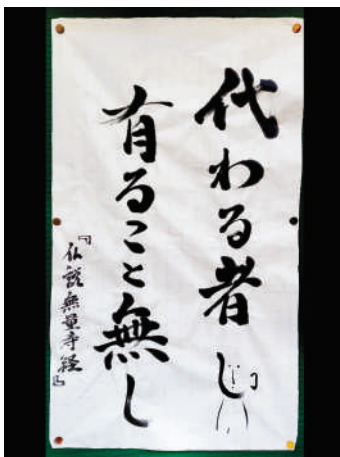
そういう人間にならねばならぬ



「分かってるわ！」と言われたらもうそこで試合終了です。怒られたり、説教されるのがイライラするのは、「そんなこと、言われなくても分かっている」ことをくどくど言われるからです。悲しみに暮れていたり、言いようのない不安の中にある時に、相手に求めているのは解消法などのアドバイスではなかったり。

お釈迦さまは相手の言うことを頭ごなしに否定したり、正論を振りかざすことはありませんでした。またすぐに「正解」を教えるということもありません。その代わりに方便(真実に導くための手段)を通して、その人自身に気付かせました。如来は道を教えるのみ。なかなかの高等テクニックです。

お釈迦さまは分かっていたのです、人間は理屈より感情で動くということ。正論より共感。一旦自分の思いや考えは脇に置いておく。そっと寄り添うだけでいい時もある。



「あなたに何が分かるっていうのよ！」ドラマでよく出てくる台詞です。

今月のことばは、『仏説無量寿経』に出てくる「無有代者」。誰も代わってくれないということです。人はどんな苦しみや悲しみに遇おうが、自分自身がそれを引き受け、生きていくしかないのです。

誰もが人には言えぬ悲しみを抱えて生きています。お釈迦さまは、否定し、避けるのではなく、受け止め、抱えて生きよと言います。

慈悲という言葉があります。「慈」は楽、安心、安らぎを与えること。「非」は苦を取り除く、和らげることです。仏教で「悲」という字は自分が悲しいという意味ではありません。他人の悲しみや苦しみを自分のことのように思い、なんとか取り除いてあげたい、力になってあげたいと思う心のことを言います。仏はこの気持ちがあまりに強いので、その心は大慈悲ともいいます。

辛い経験が私たちの仏の心を育てているのです。

8月お盆行事のご案内

お盆のお参り(柵経)

下記の通り地域毎にお参りをいたします。
尚、8月の月参り(お速夜参り)はお休みいたします。

- 1日(土) 大阪
- 2日(日) 加古川・加古郡・明石・神戸(垂水区)
- 3日(月) 救鱗寺 施餓鬼会出仕
姫路(飾磨・夢前) 午後～
- 4日(火) 神戸(垂水・須磨・長田・兵庫区)
- 5日(水) 神戸(西・北・中央・灘区)・芦屋・西宮
- 6日(木) 姫路市内・太子 8時～
- 7日(金) 当山 永代施餓鬼会
- 8日(土) 高砂 7時半～
- 9日(日) 蓮華院 施餓鬼会出仕
曾根(午後～) ※例年の8日から変更しております
- 10日(月) 的形・木場・東山・白浜 7時～
- 11日(火) 西岸寺 施餓鬼会出仕
- 12日(水) 大鳥・御着・佐土・佐土新 7時～
北脇・西浜 午後～
- 13日(木) 大塩町内(東ノ丁・宮本丁) 6時～
- 14日(金) 大塩町内(中ノ丁・西ノ丁) 6時～
- 15日(土) 観音寺 施餓鬼会出仕
- 16日(日) 当山 一般大施餓鬼会
- 23日(日) 地蔵盆(大塩各丁・的形岩鼻)

永代施餓鬼会

8月7日(金) 午前6時～

※ 受付は11時まで

永代施主家へは別途ご案内をさせていただきます

一般大施餓鬼会

8月16日(日) 午前7時～

※ 受付は11時まで

一般大施餓鬼会の開始時刻が今年より
午前7時～に変更になっております。早
い時間にお参りの皆様はご注意ください
い。尚、永代施餓鬼会は例年通り午前6
時より始めます。

回向料：1霊 3,000円

※ お申込み数の制限はありません。
初盆の方も同額です。

ご逝去の報

北脇	井神隆義さん	94歳	2月27日寂
中ノ丁	八若美子さん	97歳	3月9日寂
曾根	藤原忠さん	87歳	3月16日寂
姫路	藤原秀磨さん	85歳	4月1日寂
西ノ丁	入江勝文さん	81歳	4月13日寂
東ノ丁	神本敏春さん	84歳	4月16日寂
東ノ丁	木村三郎さん	90歳	4月20日寂
西ノ丁	岡田房恵さん	98歳	4月25日寂
白浜	藤原眞弓さん	74歳	4月26日寂
伊保	麦倉城王さん	75歳	5月6日寂
東ノ丁	山本幸雄さん	93歳	5月9日寂
大鳥	鷺尾光子さん	86歳	5月17日寂
西ノ丁	山本忠彦さん	93歳	6月7日寂
高砂	八若靖江さん	87歳	6月10日寂
東ノ丁	阿波三千子さん	83歳	6月17日寂
中ノ丁	本田正身さん	86歳	6月23日寂

秋のお彼岸のご案内

9月21日(月・敬老の日) 午後1時～

※詳細は次号でご案内いたします

編集後記

今年も師(坊主)が走りまわるお盆シーズンがやってまいりました。師走は12月ではなく8月の方がいいのではないかと思ったり。6月は思いのほか過ごしやすく助かりました。この反動が怖いところです。近年の暑さは気合いだけでは太刀打ちできません。皆様におかれましても、暑さ対策万全に、急激な気候の変化に体調を崩されませんよう、どうぞご自愛ください。